

Crown English Communication II, p. 35.

Lesson 3

Paul the Prophet

June, 2010. As the FIFA World Cup competition was reaching its final stages, sports writers tried to (1)predict the winners. Nobody had a better record of prediction than Paul: he was right 100 percent of the time.

—1

(2)It is (3)well known that Germans love soccer. As the German team moved closer to the play-offs, suspense grew. On June 13, Paul predicted that Germany would beat Australia; Paul was right. On June 18, Paul picked Serbia over Germany; he was right, but it was a group stage game and Germany (4)remained in competition. On June 23, Paul chose Germany over Ghana—right again. Paul had correctly chosen the winner in every match Germany had played.

Germany played England on June 27; Paul picked Germany, and he was right. On July 3, Germany played a quarter-final match against Argentina. Again Paul picked the German team and again Paul was right.

Germany had (5)made it to the semi-finals and Paul had not made one wrong prediction. The whole world waited for his prediction for the semi-final match between Germany and Spain.

Lesson 3—Lead

(1) predict ㄱ, p. 1484.

pre·dict* /prɪdɪkt/ [pre (前もって) dict (言う)]
((名) prediction)

— 動 (～s /-ts/; ～ed /-ɪd/; ～ing)

— ⑤ 〈人・理論などが〉〈事〉を予測する, 予言する: [[～(that) 節/wh 節]] …ということ[…か]を予測する: 《書》[[直接話法]] …だと予測する (→say ㉑ 1a 語法) ▶predict the future [earthquake] 未来[地震]を予測する/This trend is predicted to continue. この傾向は続くと言われる/It is predicted that …. …ということが予測される。

- ・ 見出し語横に()で示された(pre(前もって)dict(言う))という語源情報に注意させる。「pre(前もって)」という接頭辞から始まる他の単語の例が紙の辞書ならすぐ調べられるので, p. 1487 の prepare, prepaid などチェックさせるとよい。

pre·pare* /prɪˈpeə/ (㉑-e- は /ɪ/) [pre (前もって) pare (用意する)] ((名) preparation)

— 動 (～s /-z/; ～d /-d/; ～paring /-pəˈrɪŋ/) (㉑ be ～d など分詞形容詞用法については →prepared)

— ⑤ 1 〈人・物のために〉〈物・事〉を準備する, 用意する, …の段取りを整える《for》(㉑ 日常の単純な事柄について準備する場合は通例 prepare でなく get [make] ready を用いる)

pre-paid, pre-paid /priːpeɪd/ (強勢移動) 形 (料金)前納の。
◆～ card プリペイドカード。

- ・ 語源のすぐ下には()に入れて派生語が示されているのでチェックさせる。v の prediction は教科書本文の次行を始め, 同ページに何度も出て来るので, 辞書でも確認させたい。紙の辞書なら同ページに出ているのですぐに調べられる。

pre-dic-tion* /prɪdɪkʃ(ə)n/ [→predict]

— 名 (㉑ ～s /-z/) ㉑ «…の/…という」予測, 予言《of, for, about/that 節》; ㉑ 予測[予言]すること ▶make a prediction 予想する。

- ・ 目的語にはどのような語が来るか(選択制限)を調べさせる。山形かっこ 〈 〉を使って〈事〉と記されていることをチェックさせる。教科書本文では誰が勝つかということ, すなわち「勝者(winners)を予測する」と述べていることを理解させる。
- ・ 教科書本文 7 行目は that 節を目的語にした用法があるので, 『～(that)節/wh 節』という用法指示も確認させておくとよい。

Lesson 3—Section 1

(2) it ㄱ 4a, p. 1029.

4 [[形式主語]]

〔文法のポイント〕形式主語・形式目的語

(1) 文の主語や目的語の位置に置かれた実質的に意味のない it のこと。文の後半部にある to 不定詞や that 節の内容をさす役割をする。「仮主語・仮目的語」と呼ばれることもある。

(2) 人主語と形式主語 英語では最も伝えたい意味上の焦点となる要素や長くなる要素は文末に置かれる傾向がある。that 節や to 不定詞句はそれによって後置され, 主語の位置には形式主語 it を置く。一般的に人を主語とした文より客観的でかたい言い方となり, 間接的で丁寧に響くことが多い。

- ・ セクションの冒頭で it が使われているので, すでに述べられたものを指した用法ではないことを確かめさせ, it の形式主語の用法をチェックさせる。『形式主語』と記された 4 を参照させると〔文法のポイント〕コラムがあるので, 形式主語・形式目的語とは何か, なぜ使われるのかを理解させる。

a [[it is + 形/名 + (for A) to do/(that) 節]] (㉑ ㉑ ㉑) では that は省略されることがある) ▶It is difficult (for him) to use this cell phone. この携帯を使うのは(彼にとって)難しい (㉑ (1) to do に現れる ㉑ の目的語を主語にして This cell phone is difficult (for him) to use. のような言い換えが可能だが, より主観的な言い方 (↓ 語法 ㉑ (1)(c)). (2) ×It is difficult that he uses … としない; ↓ 語法 ㉑ (1)(b). (3) To use this cell phone is difficult (for him). より普通 / It is possible (that) John will pass the exam. ジョンが試験に合格する可能性はある (㉑ (im)possible の場合, that 節と to do で意味が異なることに注意: It is possible for John to pass the exam. ジョンが試験に合格することは可能だ) / It is important that he (主に英) should know [knows] the facts. ≈ It is important for him to know the facts. 彼が事実を知っておくことが重要だ (㉑ For him to know the facts is important. より普通; ↓ 語法 ㉑ (3)) / It is strange that Billy is [should be] late for school. ≈ It is strange for Billy to be late for school. ビリーが学校に遅刻するなんておかしい (×Billy is strange to be …. としない; ↓ 語法 ㉑ (4)) / It is a pity (that) we should be able to do nothing for her. 私どもが彼女のために何もしてやれないのは遺憾です / It was unnatural the way he kept his feelings in check. 彼の感情の抑え方は不自然であった (㉑ the way が接続詞的に用いられ, 続くこともある)。

- ・ 4a の文型表示 {it is + α/v + (for A) to do/(that) 節} を教科書本文の形と比較させる。スラッシュ (/) は交換可能な要素, 丸かっこ () の中は省略可能な要素であることを確かめさせ, 教科書本文では well known が形容詞で that 節が後続していることを確認させる。

(2) it is + 形/名 + that + 直説法 形は真実・知識に関するもの。通例 it is + 形 + (for A) to do で言い換え可能だが, to do を伴う場合, 意味上の主語を表す for A を伴うのは比較的《まれ》で, that 節を用いる方が普通。この構文で用いられる主な ㉑ ㉑ ▶apparent, certain, clear, common, enough, evident, good, great, implicit, (im)possible, (un)likely, lovely, (un)lucky, nice, obvious, plain, (un)true, well-known; idea.

- 4a 下のuコラムの(2)に, that 節が後続する形についての説明があるので参照させる。よく使われる主な形容詞として教科書本文の well-known も挙げられているので注意させる(ハイフンの有無については次の(3)で扱う)。

(3) well φ 3, p. 2137.

3 [[過分]の前で] よく(…されて); 大いに[高度に](…されて) ▶ a well-known fact よく知られている事実 / well-behaved kids 礼儀正しい子供たち / a well-organized meeting 能率よく運営された会議 / The emergency was very well handled. 緊急事態は手ぎわよく対処された / Well done [played]! You did a great job! 《話》うまいぞ[でかした], よくやった (賞賛の言葉)。

語法 複合形容詞の well

(1) well + 図 で作られる複合形容詞は, 動 の後に単独で用いられるときはハイフンなしで用いる。しかし, 図 の前ではハイフンを伴う ▶ She is well educated. 彼女は立派な教育を受けている / a well-educated woman 立派な教育を受けた女性。

(2) これらの 図 の比較級および最上級は, 普通 better と best を用いて作る ▶ a better-known singer より有名な歌手。

- well の後に known と過去分詞が続いているので, 『Eの前で』という用法指示のある 3 に導く。辞書の第 1 用例から well known の意味を確かめさせる。
- 複合形容詞の用法について u コラムがあるのでチェックさせる。(1)を参照することで, 教科書本文では be 動詞の後に単独で用いられているのでハイフンがなく, 辞書の第 1 用例では名詞を修飾する用法なのでハイフンがあることを確認させる。

(4) remain φφ 2, p. 1585.

2 [[remain + 圖] (人・物・事が) …にとどまる, 居残る (1) 圖 は場所・状態の表現。(2) stay よりややかたく, 《書》で好まれる) ▶ Bill remained alone in London [at home]. ビルは1人でロンドン[家]に残った / remain out in the open air 戸外に出たままである / remain in one's mind 心に残る / He remains in critical condition. 彼はまだ予断を許さぬ状態が続いている。

- in competition(競技(会)に)という状態を表す表現が続いていることから, {remain + φ} の文型表示がある 2 に導く。
- (1) φ は場所・状態の表現という注記から, 場所・状態の表現が具体的にどのようなものか, 辞書の用例からチェックさせる。第 1 用例の alone は状態, in London や at home は場所を示している。第 2 用例の out in the open air や第 3 用例の in one's mind はともに「場所」だが, 前者は第 1 用例と同じく「物理的な場所」で, 後者は「心の中」という「抽象的な場所」であることに留意させたい。第 4 用例は状態を表す φ が続いているので, 確かめさせる。

(5) make φI make it, p. 1166.

make it * (1) it は漠然とした状況を表す (1) 《くだけた話》(なんとか) 《目的地に》たどり着く; 《乗り物などに》間に合う to ▶ make it to the train on time 時間通りに電車に間に合う / “I can't make it” “Make what?” “間に合わない” “何に?” (2) 《くだけて》(困難の末に) 《活動・職業で/…として》成功する, うまくいく, 成し遂げる in/as; 《…にまで》登り詰める to; 《決勝・目標まで》進む to, 《主に英》through to ▶ Don't give up. You can make it. あきらめちゃだめだ。君ならできるさ / make it to the top in the business world 実業界で頂点までのぼりつめる。(3) 《くだけ

- I に出ているのでチェックさせ, (1) it は漠然とした状況を表すという注記から, it は特に前述の何かを指しているわけではないことを確かめさせる。
- (2) の意味が「ドイツが準決勝まで進んだ」という文脈に合う事をチェックさせ, {くだけて} という記述から格式ばらない表現であること, (困難の末に) という補足説明から準決勝に進むことが大変であることを確認させる。
- 共に使われる前置詞(連語)が二重山形かつ < > で示されているので注意させる。教科書本文は make it to the semi-finals と to が続いているが, 「<…にまで>登り詰める <to>」よりも「<決勝・目標まで>進む <to>」の方が教科書のこの部分に合っていることを確認させる。
- 辞書の第 1 用例は会話でよく使われる表現なので, チェックさせるとよい。

Crown English Communication II, p. 36.

—2

Germany had fallen in love with Paul. But German fans would soon be shocked. For the semi-final match with Spain, Paul picked Spain.

The fans were furious. Paul received death threats. Some people even wanted to cut him up like ⁽¹⁾sashimi and eat him for dinner.

Of course, Spain was delighted. When José Zapatero, the Spanish prime minister, heard about the death threats, he ⁽²⁾offered Paul a safe ⁽³⁾haven in Spain.

Germany ⁽⁴⁾vs. Spain was played on July 7. Paul was right again. Spain won. He had been right six out of six times. German fans were sad that their team had lost, but they had even greater respect for Paul's clairvoyance.

Lesson 3—Section 2

(1) sashimi v, p. 1659.

sa·shi·mi /sɑːʃiːmi|sæ-/ [**<日本>** 刺身].

- 見出し語横の語源情報に(<日本)と示されているので、外国語から英語に入ってきた語は「<」を付して、何語から来たかを示していることに注意させる。
- 日本語から英語になった語はいろいろあるので、生徒に想像させ、英語になっているかどうかチェックさせると、辞書引きの動機づけになる。sushi, tempura, sukiyaki, tofu などの食べ物, kimono, futon, kabuki, karate など伝統・文化関係, anime, manga といったポップカルチャーに関する語も載っているのを調べさせるとよい。

(2) offer ㄆㄣ 1a, pp. 1332–33.

of·fer /ɔːfər|ɔfə/ (強勢は第1音節)
[語源は「of (…へ向けて) fer (運ぶ)】

—動 (～s /-z/; ～ed /-d/; ～ing /-f(ə)rɪŋ/)

—㊦ 1a [offer A B/B to A] A<人>にB<協力・援助など>を申し出る; (好意から) A<人>にB<物>を差し出す[提供する] (give と違って相手が受け取ったかどうかは不明; →give ㊦ 1 文法 語法 (5)(a)); 《書》[直接語法] …と言って申し出る (→say ㊦ 1a 語法); [～oneself] «…に» 志願する «for»; «…に» 身をささげる «to»; «…だと» 名乗る «as» ▶ Can [May] I offer you a drink? 一杯いかがですか/I was offered a job as head chef. 料理長をやらないかという誘いを受けた/see what we have to offer them 我々が彼らに何をしてあげられるかを考える (have の目的語は what).

- 教科書本文では offer に続いて Paul と a safe haven という2つの名詞(句)が並んでいることから、SVOOの文型であることを理解させる。1aの文型表示{offer A B/B to A}で、offer A Bが目的語を2つ取る形であり、offer B to Aともいえることを確認させる。教科書本文は Paul が A, a safe haven が B になっていることを確かめさせる。

- give と同じ SVOO(第4文型)を取り、目的語となる名詞(選択制限)として A には人, B には与える[提供する]物が来るのが山形かっこ〈 〉で示されているので確認させる。give との違いを説明した、(!give と違って相手が受け取ったかどうかは不明; →give ㊦ 1 文法 語法 (5)(a))という解説に注目させる。教科書のこの部分ではスペインの首相が安全な避難所を申し出たが、パウルはその申し出は受けなかったので give ではなく offer が用いられていることを理解させる。参照先の give ㊦ 1 文法 語法 (5)(a)には SVOO 文型の詳しい説明があるので確認させるのもよい(p. 811)。

文法のポイント 授与動詞

第4文型(SVOO)で使われる他動詞のこと。「…に」を表す位置に置かれる間接目的語と、「…を」を表す位置に置かれる直接目的語を従え、「与える」の意を含む。代表的な動詞は, give, teach, send, buy など (→give 語法 (5)).

(5) 動 + A B 構文 動 + A B 構文をとる動は授与動詞と呼ばれ、一般に何らかの意味で間接目的語Aに直接目的語Bを与えることを表す (↑文法, →for 1b 文法).

(a) 動 + A B と 動 + B to [for] A 動 + A B の構文は通例 動 + B to [for] A に書き換え可能で、動が所有権の移動や物・事・人の何らかの移動を含意する場合にはその到達点を表す to を、そういった移動を含意しない場合には利益を表す for を用いる傾向がある。

(i) to を従える主な動 ▶ award, bring, deny, do, fax, feed, give, grant, hand, kick, leave (→leave ㊦ 12), lend, mail, offer, owe, pass, pay, post, promise, read, refuse, sell, send, show, sing, take, teach, tell, write.

(ii) for を従える主な動 ▶ bake, bring, build, buy, cook, design, do, fetch, find, fix, get, hire, keep, leave, make, order, pick, play, reach, rent, reserve, save, sing, spare (→spare ㊦ 1).

(iii) bring, do, sing, throw は to と for のいずれも可能 (→bring ㊦ 2 語法).

(3) haven v 1, p. 896.

ha·ven[†] /héiv(ə)n/ (【a- は /ei/】) 図 1 «…からの/人・動物にとっての» 安息地, 避難場所 (shelter) «from/for, of» ▶Schools are no longer a safe *haven* for kids. 学校は今や子供にとって安全な居場所ではなくなった. 2 (古文) 港 (《よりくだけて》 harbor).

- 見出し語横に! を付して示された発音注記をチェックさせる。
- 語義 1 の第 1 用例が教科書本文と同じ a safe haven を使っているの、意味を確認させる。辞書にはよく使われる語の典型的な組み合わせ(コロケーション)が例文として示されていることに注意させる。

(4) vs., p. 2109.

vs.[†] verse; versus.

- 最後にピリオドがついていることから略語であることを確かめさせる。辞書では略語の場合、可能性のある元の単語が示されていることを確認させる。
- verse, versus と 2 単語が示されているので、どちらが文脈に合うか考えさせる。共に p. 2094 に出ているので同時にチェックさせることができる。意味や例文から versus の方だと理解させたら、見出し語横の発音記号で読み方を確認させる。

verse^{*} /və:rs/ [語源は「畑のうね」]

図 (s ~s /-iz/) 1 韻文 (↔prose); [集合的に] (ある作家・時代・国などの) 詩, 詩歌 (poetry); 詩形, 詩格 ▶a story written in *verse* 韻文で書かれた物語/English *verse* 英国詩.

2 (詩・歌詞などの) 節, 連 (stanza) ▶Let's sing the last *verse*. 最後の 1 節を歌ってみよう. 3 詩の 1 行 ▶a stanza of four *verses* 4 行からなる連. 4 (聖書・コーランなどの) 節 (章 (chapter) を細分したもの; 《略》 v., vs., ver.). 動 自 (まれ) (…を) 詩で表現する (versify).

ver·sus^{*} /və:rsəs/ [＜ラテン]

前 1 (競技・訴訟などで) …対(々), …に対して (against) (《略》《米》 vs., 《英》 v.) ▶England *versus* Scotland イングランド対スコットランド(戦)/Jones *versus* Smith ジョーンズ対スミス訴訟事件 (前者が原告側).

2 (比較・二者択一で) …に対して ▶the nature *versus* nurture debate 生まれか育ちかという論争.

- versus 1 の({略}{米}vs., {英}v.)という部分に注目させる。{略}という表記は略語を示しており、略語がイギリス英語とアメリカ英語で違うので、{米}{英}と記して違いが示されていることを確かめさせる。

Crown English Communication II, p. 37.

Paul was right again when he picked Germany over Uruguay in the third-place play-off. And Paul was right with his last ⁽¹⁾prediction that Spain would beat the Netherlands in the final match of the 2010 FIFA World Cup.

Paul had a perfect, 100 percent correct, record of predictions for eight ⁽²⁾straight games. Who was this Paul? And how could he make such accurate predictions?

(1) prediction v, p. 1484.

pre-dic-tion* /prɪdɪkʃ(ə)n/ [→predict]

— 図 (②) ~s /-z/ ④ «…の/…という» 予測, 予言 «of, for, about/that 節»; ⑤ 予測[予言]すること ▶make a prediction 予想する.

- 見出し語横の()は語源欄で、(→predict)は当該見出し語(ここでは名詞の prediction)と派生関係にある語(ここでは動詞の predict)のところに詳しい語源情報などがあるので参照せよ、という指示であることに注意させる。同じページの上部にある predict は教科書本文に何度も出て来るので、語源情報以外も参照させるとよい。

pre-dict* /prɪdɪkt/ [pre (前もって) dict (言う)]
((名) prediction)

— 動 (~s /-ts/; ~ed /-ɪd/; ~ing)

— ⑤ (人・理論などが)〈事〉を予測する, 予言する: [[~ (that) 節/wh 節]] …ということ[…か]を予測する; 《書》[[直接話法]] …だと予測する (→say ③ 1 a 語法) ▶predict the future [earthquake] 未来[地震]を予測する/This trend is predicted to continue. この傾向は続くと予測される/It is predicted that …. …ということが予測される.

- 二重山形かっこで共に使われる表現が示されていることをチェックさせる。<…の/…という>と表現する場合は <of, for, about/that 節>を使うと示されていることを確認させ、教科書本文では that 節が用いられているので、「スペインがオランダを破るだろうという最後の予測」という同格を表す意味になることを確かめさせる。
- 同じく二重山形かっこで示された共に使われる前置詞のうち、教科書本文 24 行目では predictions for …と for が用いられているのでチェックさせる。
- 教科書本文 27 行目にも prediction が用いられているが、そこでは動詞 make が使われていることを確認させる。辞書の用例と訳を参考に、「そのような正確な予測をする」という意味になることを確かめさせる。

(2) straight α 2, p. 1864.

straight /streɪt/ (㊦-aight は /eɪt/; strait と同音)
[語源は「引き伸ばされた」]((動) straighten)

— 形 (~er; ~est/2, 5, 10 は比較なし) 1 まっすぐな, 一直線の: 水平の, 平らな; 直立した, 垂直の: 〈スカートなどが〉ストレートラインの ▶walk in a straight line まっすぐ歩く/straight hair 直毛 (↔curly [wavy] hair)/a straight nose 鼻筋の通っている鼻/a straight back (曲がっていない)まっすぐな背中.

2 [[図の前で] 連続の (㊦主にまれに起こる事について述べる) ▶over three straight days 3日連続して/shoot for one's seventeenth straight win 17 連勝を目指す/get straight A's オール A の成績をもらう (→A).

- 見出し語横の!を使った発音注記を確認させる。前半には発音しにくい部分をどのように発音するかが示されており、後半には同じ発音で別の単語があるので注意を促していることをチェックさせる。
- 語義 2 の[vの前で]という用法指示が教科書本文に合っていることを確かめさせる。辞書の第 1 用例を参考に「連続 8 試合」という意味になることを確認させる。
- !を使った「主にまれに起こる事について述べる」という注記をチェックさせる。連続 8 試合について予測を的中させるのはまれであり、教科書のこの部分の状況と注記が合っていることを確認させる。

Crown English Communication II, p. 38.

—3

You probably already know who Paul was because he ⁽¹⁾became famous: the world's most famous octopus. Yes, Paul was a common octopus, born in 2008 in England and moved to the Sea Life Center in Germany, where he became a great ⁽²⁾favorite of children.

Octopuses are as intelligent as some vertebrates. Paul was especially intelligent. He surprised the aquarium workers by learning to open glass bottles. Intelligence, however, had nothing to ⁽³⁾do with Paul's success in choosing winners.

The prediction process was simply chance. Paul was given two boxes in which there were

Crown English Communication II, p. 39.

mussels, his favorite food. Each box had the national flag of a team. The first box from which Paul ate the mussels was taken to be a prediction of the winner of the game.

What are the ⁽¹⁾odds for making eight straight correct predictions? José Mérida, a data analyst, explains the odds using a coin tossing model. There is a good ⁽²⁾chance that one person out of 178 will predict all the winners from a series of eight matches. Since millions of fans predicted World Cup games, there ⁽³⁾could have been thousands who made eight correct predictions.

Paul was ⁽⁴⁾remarkable, but he was not unique.

(1) odds v 1, p. 1327.

odds /ɑ(:)dz|ɔdz/ ④ [通例複数扱い] 1 [通例 the ~] 可能性, 見込み, 確率 ▶even odds 五分五分のチャンス/shorten [lengthen] the odds 実現に近うける[を遠ざける]/The odds are that he will do so. おそらく彼はそうするだろう/if the odds are in one's favor うまくいけば。2 困難, 見通しの暗さ; 反対(の意見), 相違 ▶great odds 大変な困難。3 (賭け事の)賭け率, 勝てる度合い, 歩[分](^度) ▶at odds of 10-1 10対1の賭け率で(勝てば10倍)。

- 教科書本文が the odds となっているので, 名詞であることを確かめた上で辞書を引かせる。odd という見出し語の名詞の複数形なのか, odds という見出し語の名詞なのかをチェックさせる。紙の辞書なら見開きの両ページにあり, 簡単に調べさせることができる。odd の複数形と考えた場合, 意味が文脈にそぐわないため, odds に導く。

odd /ɑ(:)d|ɔd/ [「三角形(の頂点)」>「(頂点の数が)奇数の」>「奇妙な」]

④ ④ 1 半端な物。2 (英) [ゴルフ] オッド (各ホール一打のハンディ)。

- [通例 the ~]という用法指示や, 「8回連続で正確に予測する」という教科書のこの部分の内容と合うため, 語義 1「可能性, 見込み, 確率」という意味になることを確認させる。

(2) chance v 1a, p. 315.

chance /tʃæns|tʃɑ:ns, tʃæns/ (英)でも /tʃæns/ は若者に多い

[語源は「偶然に起こる」]

④ ④ ~s /-ɪz/ 1 a ④ <…の/…する/…という> 可能性, 見込み (possibility) <of/of doing/that 節>; 勝算, 勝ち目 (具体例では a ~; その際しばしば修飾語を伴う; 注語 ▶fair, good; little, outside, remote, slim, slight) ▶a fifty-fifty [an even] chance 五分五分の見込み/There is a good chance that John will win the game. ≈ John has a good chance of winning the game. ジョンがその試合に勝つ見込みは十分ある/“Is there any chance of his coming?” “Not a [Nó] chance, I'm afraid.” (くだけで)「彼が来る見込みはありますか」「まずないと思います」(↓ 成句) Fat chance! / There was no chance [of them surviving [of their survival, (that) they survived]. 彼らが生きている可能性はなかった。

- 教科書本文と同じ形の例文が辞書の第2用例になっていることから語義 1a であることを確認させる。太字用例なのでよく使われるチャンクであることに注意させる。
- 辞書の第2用例の訳を参考にして, 「178人のうちのひとりが, 連続8試合の勝者すべてを予測できる見込みがおおいにある」という意味になることを確かめさせる。
- 二重山形かつ <>で共に使われる表現が示されているのでチェックさせる。<…の/…する/…という>と表現する場合は <of/of doing/that 節>を使うことを確認させ, 教科書本文では that 節が用いられていることを理解させる。他の形も辞書用例を使って確かめさせるとよい。

(3) could μ 11, p. 436.

11 〔仮定法過去完了〕〔could have done〕a (やろうと思えば) …できただろうに; …だったかもしれないのに ▶ If I had won the lottery I *could have bought* a yacht. 宝くじが当たっていたらヨットを買えたのに/He was lucky when he fell off the ladder. He *could have hurt* himself. 彼ははしごから落ちたとき運がよかった。けがをしていたかもしれないんですから/Any school boy *could have done* such a simple job. 小中学校の生徒であればそんな仕事は簡単であった。

- 教科書本文の could have been ... の形から, {could have done} の文型表示のある語義 11 に導く。[仮定法過去完了] という用法指示があるので, 11a の if 節を用いた第 1 用例を使って用法や意味を確かめさせる。
- 教科書本文では「(もしその時に予測していたとすれば,) 8 回正確な予測をした人が何千人もいたのかもしれない」と, 過去の時点における推量を述べていることを確認させる。
- 教科書本文は if 節のない仮定法過去完了であることを確かめさせ, 同様に if 節のない例として, 辞書の第 2, 3 用例をチェックさせる。

(4) remarkable α, p. 1586.

re-mark-a-ble* /rɪmɑːrkəb(ə)l/ [→remark]

— 形 (more ~; most ~) 〈人・事などが〉《…について/…の点で》注目すべき, 驚くべき; 並外れた, 珍しい «about/for»; [it is ~ that 節] …なのは驚きに値する ▶ a remarkable achievement 目覚ましい業績/There is nothing remarkable about him. 彼には特に驚くような点は何もない/The city is remarkable for its scenic beauty. その都市は景観美がすばらしい/It is really remarkable that nobody was killed. 誰も命を落とさなかったのは本当に異例のことだ。~ness 図

- 見出し語横の () は語源欄で, (→re-mark) は当該見出し語 (ここでは形容詞の remarkable) と派生関係にある語 (ここでは名詞・動詞の remark) のところに詳しい語源情報などがあるので参照せよ, という指示であることに注意させる。同ページ 1 つ前の見出し語なので, すぐ参照させることができる。同様に副詞の remarkably も 1 つ後ろの見出し語になっているのでチェックさせると, 派生関係にある語の広がり理解させることができる。

re-mark* /rɪmɑːrk/ [re (再び) mark (注目する)]
((形) remarkable, (副) remarkably)

— 図 (④ ~s /-s/) 1 図 «…についての/…という» (短かめの) 感想, 意見, 発言, 所見 (comment) «about, on/that 節»; 注記; 摘要; [~s] (公式の) 言葉 ▶ make [pass] a remark about the policy その政策について所見を述べる/opening remarks 冒頭のあいさつ. 2 図 (古) 注目, 注意 ▶ be worthy of remark 注目に値する.

— 動 (~s /-s/; ~ed /-t/; ~ing)

— ④ 1 図 [~ that 節] 〈人が〉(意見・感想として) …だと述べる[言う]; 《書》[直接話法] …と述べる[言う] (→say ④ 1 a 話法) ▶ An official remarked that the plan would never fail. 担当者がその計画はきつとうまくゆくと述べた/“That’s a good idea,” remarked Ken. 「それは良い考えだ」と健が言った. 2 図 (かたく・やや古) 〈人が〉(物・事) に気づく. remark on [upon] A 〈人が〉A (注目すべき) 物・事を言う; A の感想を述べる (1 A には wh 節・句もくる; 受け身可).

re-mark-a-bly* /rɪmɑːrkəb(ə)li/ [→remark]

— 副 1 目立って, 著しく, 非常に(似ている・効果的だ・うまいなど) ▶ be remarkably similar [different] 酷似している[著しく異なる].

2 〔文修飾〕珍しいことに, 驚くべきことに (1 話し手の主張を強調する; →actually 読解のポイント) ▶ Remarkably, she escaped uninjured. 驚いたことに, 彼女は無傷で難を逃れた.

- 教科書本文は be 動詞に続く叙述用法であることを確かめさせる。限定用法の例として辞書の第 1 用例をチェックさせる。

Crown English Communication II, p. 40.

—4

It may ⁽¹⁾seem strange that people would study animals to try to predict the future, but it is not at ⁽²⁾all unusual.

In ancient China, people studied turtle ⁽³⁾shells. In the Greek temple at Delphi there was a mouse prophet. The Romans believed that you could see the future in the flight of birds. In recent times, an American horse named Lady Wonder answered people's questions about the future. Scientists have studied changes in the behavior of birds and fish to ⁽⁴⁾see if they can predict an earthquake. Paul is not the first animal people have asked to predict the future.

When the World Cup was over, Paul was given a reward for his predictions: a little World Cup and his favorite food—mussels. Then the aquarium announced that Paul was retiring from sports

Lesson 3—Section 4

(1) seem ㄇㄢ, p. 1696.

3 [it seems C (to A) that 節/it seems C (for B) to do] (A〈人〉には)…すること[B〈人〉が]…するのはCであるらしい, Cのように思える (ㄱCは ㄱㄴ) ▶It seems unlikely that he will attend the meeting. 彼が会議に出席することはありません/It seems a simple thing for us to breathe. 僕たちが呼吸することは簡単な事に思える.

- 教科書本文は it で始まり, seem には strange というα, そして that 節が続いていることから, {it seems C (to A) that 節/it seems C (for B) to do} の文型表示のある語義 3 に導く。辞書ではしばしば () で示された要素は「省略可能」を, スラッシュ(/) は「または」を表すことを確認し, 教科書本文は文型表示の前半部分に相当し, to A は省略された形であることを確かめさせる。
- (!Cはαv) という注記をチェックさせ, 教科書本文や辞書第 1 用例はα, 第 2 用例はv の例になっていることを確認させる。

(2) all vI at all, p. 56.

at all (1) [[否定文で] 少しも(…でない), 全然(…でない) (ㄱ否定の強調); (感謝の言葉に対して) どういたしまして ▶I'm not at all surprised. ≡ I'm not surprised at all. 全然驚いてないよ/I knew nothing at all about that. 私はそれについてはまったく何も知らなかった/It's hardly been used at all. それは本当にほとんど使われていない/"Do you mind if I smoke?" "Not at all." "タバコを吸ってもよろしいでしょうか" "どうぞ" (→ mind ㄱ 1 コミュニケーション)/"Thanks for coming over." "No, not at all." "来ていただいてどうも" "いや, どういたしまして" (ㄱ《主に英・ややかた》で感謝の言葉に対する丁寧な返答. 特に《英》では, 軽い依頼の場合は何も返答しないことも多い; → You're welcome; all right コミュニケーション). (2) [[疑問文で] いったい, そもそも ▶Do

- ㄱとvでできた成句の場合, 通例より意味内容を強く持つvのところで成句が立項されているので, all の方をチェックさせる。成句は品詞別にリストされていることを確かめさせ, ここではv all の成句を調べさせる。
- 教科書本文が[否定文で]という用法指示と合っているので(1)を参照させ, (!否定の強調)という注記をチェックさせる。成句義を参考に, 教科書のこの部分は「それは少しも珍しくない」という意味になることを確かめさせる。
- 辞書の第 1 用例と教科書本文を比較させ, 否定の要素である not に続いて at all が使われていることを確かめさせる。第 1 用例の≡を使った書き換え文に注目させ, at all を文末で使用することもできることを確認させる。

(3) shell v 1, p. 1727.

shell ^{/ʃel/}

[原義は「(動植物の)硬い外皮」]

ㄱㄴ (ㄱㄴ ~s /-z/) ㄱ 1 [[材料としては ㄱㄴ] (木の实・卵・種などの) 殻; 貝殻; (カメ・カタツムリ・カニなどの) 甲羅, 殻; (パイなどの) 皮 ▶a coconut shell ココナツの殻/crack the shell 殻を割る. 2 砲弾. 3 《主に米》薬莢(ㄱㄴ) (cartridge). 4

- 見出し語横の() が示す語源欄には「原義は「(動植物の)硬い外皮」と記されていることに注意させる。語義 1 の語義は「殻」「貝殻」「甲羅」「皮」などといろいろあるが, 原義を考えれば理解しやすいことに気付かせる。
- 教科書本文は文脈から「亀の甲羅」であることを確かめさせる。

(4) see ㄇㄢ 3a, p. 1693.

3a [see wh 節/if [whether] 節] (人が)…か(どうか)を見ている, 確かめる, 検討する (ㄱ通例進行形にしない) ▶He looked around to see if anyone had noticed him. 彼はあたりを見回して誰かに気付かれていないか確かめた/I'll just wait and see what happens. どうなるかおとなしく様子を見ます/I'll see if I can locate another table for you. 《店員の言葉》なんとか別の席をご用意いたしましょう/We'll [I'll] see what we [I] can do. (依頼に応じて)やってみましょう/We'll have to see how it goes [things go]. 少し様子を見る必要がありそうだ.

- 教科書本文は see に if 節が続いていることから, {see wh 節/if [whether] 節} の文型表示のある語義 3a に導く。
- 教科書本文と同様に if を使った辞書の第 1 用例をチェックさせる。語義や用例訳から教科書本文では「それらが地震を予知できるかどうか確かめる」という意味になることを確かめさせる。

Crown English Communication II, p. 41.

forecasting: “Paul will get back to his real job—
making children laugh.”

Octopuses usually live only about two years.
Paul lived a nice long life (for an octopus) and died
(1)peacefully at the aquarium on October 26, 2010.
They have built a little (2)shrine to mark his grave.

Football fans will remember Paul for a long
time.

(1) peacefully φ 1, p. 1408.

peace·ful·ly ¹ 副 1 すやすやと〈眠る〉; 安らかに〈死ぬ〉; 平穩に〈暮らす〉. 2 平和的に〈解決する〉.

- どのような語を修飾するか(選択制限)を示した山形かっこ 〈 〉 の情報が有用であることを教えたい。語義 1, 2 には 4 つの訳語とそれぞれの選択制限が示されているので調べさせる。その中で、教科書本文では **die** (死ぬ) が用いられているので、「安らかに」がもっとも適切な訳語になることを確かめさせる。

(2) shrine v 1, p. 1743.

shrine ¹ /ʃraɪn/ [語源は「貴重品を入れる箱」] 図 1 «…を祭った» 聖堂, 廟(うゑ); 祭壇, 礼拝堂; 神社, 神殿, 社(やしろ), 宮 «to, of» ▶ a Shinto shrine (日本の) 神社. 2 聖地, 霊地; (一般に) ゆかりの地, 殿堂 ▶ This stadium has become a shrine for baseball fans. このスタジアムは野球ファンにとっての聖地となっている. 3 故人を偲(おも)ぶ場所, 廟; 故人への供え物, 位牌(いはい). 4 (聖者の遺物・遺骨などを納めた) 聖遺物箱. — 動 ⑤ 《詩》…を社に祭る (enshrine).

- パウルの墓標を示すために建てられたものなので、語義 1 の「聖堂, 廟」などがふさわしいことを確認させる。
- 日本の「神社」を意味することもあり、辞書の用例のように Shinto が付いている場合は特に神社を指すことを確認させる。
- 教科書前ページの 5 行目には temple (p. 1939) が出て来るので shrine と比較させるのもよい。語義 1 の 1 には「キリスト教の聖堂には主に church を, 日本の寺には temple, 神社には shrine を用いる」と違いが説明されているので確認させる。

tem·ple ¹ ² /tɛmp(ə)l/ [語源は「(古い用に)区切られた場所」]
— 図 ⑤ ~s /-z/ ① (キリスト教以外の) 寺院, 聖堂 (■ キリスト教の聖堂には主に church を, 日本の寺には temple, 神社には shrine を用いる) ▶ a Buddhist [Hindu] temple 仏教[ヒンドゥー教]寺院/(the) Kinkakuji Temple 金閣寺.
2 (古代ギリシャ・ローマ・エジプトの) 神殿 ▶ the temple of Apollo アポロ神殿. 3 [the T-] (古代エルサレムのユダヤ教の) エホバの神殿. 4 [米] (ユダヤ教の) 礼拝堂; (モルモン教の) 礼拝堂; (キリスト教, 特にフランスのプロテスタントの) 礼拝堂. 5 (芸術などの) 殿堂 ▶ a temple of music 音楽の殿堂. 6 [神] 神のいる所[もの]; キリスト教徒の体. 7 (中世の) テンプル騎士団の殿堂 (London と Paris にあった); [the T-] テンプル法学院 (London の方の殿堂にある the Inner Temple または the Middle Temple).